**「倒産３割減」の陰で**

　日本最大の「ものづくりのまち」東京都大田区で１月、戦前から７５年続く金型を作る町工場が、ひっそりと廃業した。

　「この辺の人はみな、アベノミクスの恩恵なんかにあずかってないよ」。経営者の女性（７２）は言った。「もうかってないけど、借金しないでやってきた」。無借金経営だったが仕事は少なく、残った職人たちも高齢で、潮時と考えた。

　５月下旬の日中に訪ねると、女性は片付けをしていた。工場の建つ敷地の片隅に小さな部屋があり、「事務所」の札。窓もアルミサッシではなく木枠で、鍵は今では見かけないネジを締め込むタイプ。昭和の雰囲気が漂う。

　女性は片付けの手を止めずに言った。「年代を感じるでしょ。黒電話をずっと使ってました」。亡き父が創業し、戦時中は落下傘の金具を作る軍需工場だったという。多い時には従業員が３０人ほどいた。戦後は地方からの集団就職組が働いた。高度成長を背負い、町工場に人生をささげた。

　　　　　　◇

　「民主党政権時代、中小企業の倒産件数は今よりも３割多かった」

　今月１０日夜、三重県四日市市の文化会館で開かれた参院選立候補予定者の決起大会。安倍晋三首相は会場を埋め尽くした約１８００人に向かってアベノミクスの成果を強調。胸を張って繰り返した。「私たちは３割減らしたんです」

　アベノミクスは滑り出しの円安・株高で、一部の大企業に巨利をもたらした。安倍政権は、巨利が中小企業へ「トリクルダウン（滴り落ち）」する状況を思い描いていた。本当に滴り落ちているのか。

　民間信用調査会社「東京商工リサーチ」によると、倒産はしないまでも休業や廃業、解散のケースが多数存在する。確かに倒産件数は２０１２年比で３割近く減ったが、休廃業・解散件数は０９年以降、２万５０００件超の高水準で推移。昨年は２万６６９９件で、倒産件数の３倍に上っている。

　大田区による「区内の工場数の推移」（複数の統計を使って集計）によると、民主党政権当時の１２年２月時点に３９６７軒あった工場は、１４年１２月時点で３４８１軒。その月には、安倍首相が「アベノミクスの成果」を掲げる衆院選があった。ほぼ２日に１軒のペースで工場が消えている。

　　　　　　◇

　女性は事務所から出て、工場の軒下にあるからっぽのツバメの巣を見上げた。「初めてツバメが来たのは平成１６（０４）年でした」。その後「今年も来るといいですね」が、近所の合言葉となった。

　片付けを終えた女性が最後に門扉を閉める際、金属のきしむ音が響いた。町工場群の悲鳴のようにも聞こえた。【田口雅士】 （２面に「識者に問う」）